

「永遠の命を与えるお方」

～復活の希望に生きる～

「このわたしが、死人を生き返らせ、もう一度いのちを与えるのです。わたしを信じる者は、たとえほかの人と同じように死んでも、また生きるのです。わたしを信じて永遠のいのちを持っている者は、決して滅びることがありません。」

ヨハネによる福音書11章25・26

本日はイースター（復活祭）です。私たちの信じる主イエス様が二千年前に十字架の死よりよみがえり、復活なさった記念すべき日です。

復活の恵みは、主の偉大な御業というだけで終るのではなく、その復活は、私たちにも及んでいるというのが聖書のメッセージです。

しかも、その私たちに与えられている復活の希望は、目に見える状況で実現するのではなく、信仰によって、霊によって実現しているというのです。私たちはこの世の限界性のある世界に生きているために、その限界の中でのみ希望を見ることしかできませんが、復活の希望は、私たちの生きている現実の枠を超えて存在している現実でもあるのです。これは概念でしか理解ができませんが、主はその枠を超えた世界を信仰によって体験して欲しいと望んでおられるのです。

現在最も影響力のある神学者の一人、イギリスの神学者NTライトの言葉を引用します。「…もしイースターが意味をなすとすれば、…ユダヤ教の古典的世界観の中においてこそ意味をなすのである。すなわち、「天」と「地」は同じではないし、互いにまったくかけ離れてもいない。そうではなく、いろいろな仕方で神秘的に重なり合い、かみ合っている。また、天と地の両方を造られた神は、世界の内側から働き、同様に、世界の外側からも働いている。世界の痛みを分かち合い、じつに、すべての重荷をご自分の両肩に負っておられる。この見方からすれば、東方教会がつねに強調してきたように、イエスがよみがえられたとき、神のすべての新しい創造が墓の中から現れ出て、この世界に新しい潜在力と可能性に満ちた世界を導き入れたのである。じつに人間自身が再生され、刷新されるという、まさにその新しい可能性のゆえに、イエスのよみがえりは、私たちを受動的で無力な観客にしたままではおかない。私たち自身で身をもたげ、自分の足で立ち上がり、肺に新しい息を吸い込み、出て行って、世界に新しい創造をもたらさずにはおかないのである。・・・」

完全に理解するのは難しい内容ですが、主イエス様の復活は全被造物の再生につながるということ。あの空っぽの主イエスのお墓から、すべての新しい世界が新創造されたと解釈できるという驚きの理解を与えてくれました。もっと身近に主の復活を味わいたいと願います。